



# 変わりゆく気候科学における数値モデリングの役割

## Role of Numerical Modeling in Evolving Climate Sciences

気候システムの数値モデルが最初に作られてから半世紀以上が経ちました。この間、モデルはより複雑になり、気候・気象現象の再現性が向上するとともに、再現すべき気候自体も変化を続けてきました。人間活動に起因する温室効果ガス排出増が20世紀以降の温暖化をもたらしたことは事実と評価され、温暖化の地域気候や極端気象などへの影響も明らかになっています。気候科学における気候モデルあるいは地球システムモデルの必要性は昔も今も変わっていませんが、同時に、初期にはなかったさまざまな問題も顕在化しつつあります。本シンポジウムでは、変わりゆく気候科学におけるモデリングの役割について、複数の観点から第一線の専門家にご講演いただき、これからの気候モデリングのあり方について考えるきっかけを提供することを目的とします。皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2024年5月24日（金）13:30～17:00  
於 東京大学弥生講堂＋オンライン

司会： 吉森 正和（東京大学大気海洋研究所）

気候科学における数値モデリング：これまでとこれから  
渡部 雅浩（東京大学大気海洋研究所）

気候のモデリングとシミュレーションはなんのため？  
阿部 彩子（東京大学大気海洋研究所）

気候モデルと地球観測：リアルな仮想世界と不確実なリアル  
増永 浩彦（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

Km-scaleシミュレーションは何を解決するか  
宮川 知己（東京大学大気海洋研究所）

気候シミュレーションによる社会への貢献  
今田 由紀子（東京大学大気海洋研究所）

これからの気候モデリングと社会  
江守 正多（東京大学未来ビジョン研究センター）

総合討論

どなたでも参加  
できます♪  
お申込みは以下  
のQRコードから



渡部 雅浩



阿部 彩子



増永 浩彦



宮川 知己



今田由紀子



江守 正多